

TED活用のポイント

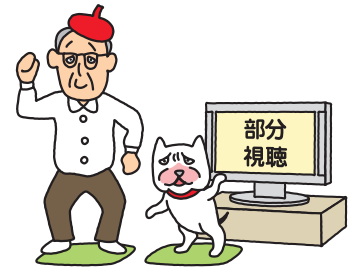
プレゼンテーションの本質を感じる

TEDの動画はそのまま子どもたちに見せるだけでなく、教員がプレゼンテーションに関する指導を行う前を見ると大いに参考になります。

小・中学校での調べ学習の成果発表や教科「情報」などで、児童・生徒がプレゼンテーションを行う機会が増えてきています。その際、プレゼンテーションソフトの扱い方など、資料作成に多くの時間が割かれることがあります。しかし、TEDに登場するプレゼンテーションを見

ていると、スライド資料はほとんど使われていないことに気がきます。資料はあくまでも「語り」をより効果的にする補助的な役割に過ぎません。もちろん、資料の見やすさ、まとめ方、見せ方の工夫等について学ぶことも、プレゼンテーションの重要な要素ですが、TEDスピーカーたちの資料は非常に「シンプル」です。話の内容、「誰に、何を伝えたいのか」を明確にするための時間をより多く設定したいものです。

プレゼンテーションで重要な



は自分の主張への「自信」と、それを相手に知ってもらいたい、分かってもらいたいという「情熱」です。入念な下調べ、データや根拠から主張が明確になり、それが自信につながります。また、自信を持った明確な主張が情熱となって表れるのではないのでしょうか。

(永野 直)

おすすめTED Talks

- ・ TED日本語ページ (<http://www.ted.com/translate/languages/ja>) からご覧になれます。
- ・ ここで紹介しているプレゼンテーションには、すべて日本語字幕が付いています。
- ・ 各ビデオの右下にある「Show transcript」というボタンをクリックし、「Japanese」を選択すると映像の中に日本語字幕が表示されます。



○ポー・ロット&エイミー・オトゥール
「科学は万人のもの(子どもも含む)」
(<http://on.ted.com/Lotto>)
・ 「ミツバチ」に関する素朴な疑問を持った8歳~10歳の子どもたちが、好奇心をもって実験を行い、論文にまとめ権威ある学術論文誌に掲載されるまで。

○マルコ・テンペスト
「拡張現実的テクノマジック」
(<http://on.ted.com/Tempest7>)
・ テクノロジーを駆使したマジックを芸術の域まで高めているマルコ・テンペスト。技術的にどんな仕組みかを考えてみるのも面白いかもしれません。

○スーザン・ケイン
「内向的な人が秘めている力」
(<http://on.ted.com/Cain>)
・ 社会的で話術の優れた人、グループ学習や作業は素晴らしい。しかし一人でじっくり考える内省的な時間や内向的な人の良さも忘れてはいけけないのでは。

コラム オンライン動画と教育

TEDには、他にも学習教材として使える内容の動画がたくさんあります。(多くの動画には世界中のボランティアによって各国語の字幕がつけられています。)すでにアメリカでは「TED-Ed」と呼ばれるプロジェクトがあり(<http://ed.ted.com/>)、TEDやYoutubeの動画を教育に利用するためのサービスが始まっています。教員は自分の授業用のページを作成し、学習内容に沿った動画をいくつか登録します。そこに追加の説明文や確認テストなどを作ることができ、視聴者はコメントや質問等をすることができます。(Ted-edは今後、日本語版についても開始が検討されて

います。) オンライン動画を用いた教育では「カーン・アカデミー」(<https://www.khanacademy.org/>)もアメリカで人気があります。「カーン・アカデミー」については、創設者のサルマン・カーン氏による「ビデオによる教育の再発明」についてのプレゼンテーションをTEDで視聴することができます。(<http://www.ted.com/talks/view/lang/ja/id/1090>)

このようなインターネット動画を用いた授業手法は「フリップラーニング」と呼ばれ、主にアメリカの大学等で試みが始まっています。重要なのはインター

ネット上の動画で授業を済ませるものではないということです。基礎的・基本的な知識をインターネット上の動画を通じて自宅などで事前に理解させておき、実際の教室の授業では教員・学生同士のコミュニケーションを通じて発展的、創造的な内容に取り組むというものです。この「ティーチャーズ・ライブラリー」もそうであるように、動画は学習教材の1つとして大きな価値があります。しかし、「見せて終わり」では学習成果はあまり上がりません。視聴前、視聴中、視聴後などに、学習目的に応じて子どもたちにどのような学習課題を設定するかが重要といえるでしょう。